

EANM'25 World Leading Meeting

若林 直人

北海道大学病院 核医学診療科

2025年10月14日論文受領、最終受理2025年10月16日

この度、NPO法人メディカルイメージラボの宮坂アワードに採用を頂き、スペインのバルセロナで開催されたヨーロッパ核医学会EANM'25 World Leading Meetingに参加しましたのでご報告申し上げます。

EANMは核医学領域で世界最先端かつ最大規模の国際学会の一つであり、EANM'25 World Leading Meetingと題した通り、世界をリードする多数の研究発表で活発な議論が行われていました。

今回、私は神経内分泌腫瘍に対する ^{177}Lu -DOTATATE治療における体外線量率と治療効果に関する研究を発表しました。

^{177}Lu -DOTATATE(ルタテラ[®])は2021年に日本で承認された薬剤ですが、2025年9月には転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する核医学治療薬である ^{177}Lu -PSMA(プルヴィクト[®])が日本で承認されました。海外では今回承認された

^{177}Lu -PSMA(プルヴィクト[®])が使用されてから既に数年が経っており、学会では ^{225}Ac との使い分けが議論されていました。 ^{225}Ac は α 核種であり、 β 核種の ^{177}Lu とは細胞障害性の強さや有害事象、治療の運用が少し異なります。しかし、 ^{225}Ac -PSMAは日本で未承認ですので、現在の日本の臨床現場で α 核種と β 核種の使い分けについて議論をすることはありません。これら薬剤の使用経験が豊富な先生方の議論を生の声で聴くことができるのは国際学会に現地参加することで得られる大変貴重な経験であると思います。今回の学会で学んだことを日常臨床に生かせる日が来ることを楽しみにしています。

今回、このような素晴らしい機会を与えてくださったNPO法人メディカルイメージラボにこの場を借りて感謝申し上げます。

